



滝沢市長
柳村典秀

「人口日本一の村」から 「住民自治日本一の市」を めざして

新市紹介
滝沢市
（岩手県）

平成26年1月1日に、市制施行により「滝沢市」が誕生しました。

豊かな自然に囲まれた「研究学園都市」

滝沢市は、県庁所在地の盛岡市に隣接し、市の北西部には秀峰岩手山をいただし、市内に北上川と雫石川が流れる自然豊かなまちです。また、詩人宮沢賢治が愛した鞍掛山や春にはカタクリ、ミズバショウなどの貴重な植物が咲き誇る春子谷地湿原など、賢治ゆかりの地も数多く残っています。

前身の滝沢村は、明治22年の町村制実施にあたり、「大釜村」「篠木村」「大沢村」「鶴飼村」「滝沢村」の5つの村が合併して誕生しました。当時の人口は3700人余りで、稲作、酪農などを基幹産業とし、また、県内有数の馬の産地でもありました。以来120余年、一度も合併することなく、昭和40年代後半から急激に人口が増加し、平成11年11月末には「人口日本一の村」となりました。

また、市内には5つの大学のほか、産学連携サポート施設、IT関連企業の集積地、国および県の試験研究施設等が数多く立地する研究学園都市でもあります。東北自動車道滝沢ICや盛岡ICからのアクセスの良さなどもあり、本市の経済

成長を支える基盤としてさらなる発展が期待されています。

「住民協働」から「住民自治」へ

これからの滝沢市は、地域を想う市民個々の活動を通して絆や信頼感をはぐくみ、お互いさまと思える気持ちでつながる仲間、つまり「社会関係資本」の醸成を促すことで、市民が幸せを実感できるよう、選ばれ続ける自治体となることが求められています。

これまでも、市民と行政がパートナーとなつて協働のまちづくりを推進してきましたが、平成27年度からスタートする新しい総合計画では、「住民自治日本一の市をめざす地域社会計画」を計画のコンセプトとしています。そして「住民自治日本一の市」を「住民自らが住み良い地域を考え、



国・無形民俗文化財「チャグチャグ馬コ」

思いやりと協力の気持ちをもち、地域や仲間と関わることに『満足』と『幸福感』を日本一実感できるまち」と仮定した上で、策定を進めています。

総合計画の根幹となる「幸福感」を世代ごと、場面ごとに住民が主体的に考えていく中で、各世代の象徴的な「幸福感」、それを測る「指標」、そのために市民ができる「行動」をまとめることとしており、滝沢市民みんなが共感できる幸福感づくりに挑戦して参ります。

新市プロフィール



- 人口 5万5114人
- 世帯数 2万1828世帯
- 面積 182.32km²
(平成25年11月末現在)
- 主要産業・特産品
農業・すいか、りんご、クイックスイート(さつまいも)、いわな
- 観光名所・旧跡
たきざわ自然情報センター、縄文ふれあい館、南部曲り家、八幡館山遺跡
- 行事・イベント
鞍掛山山開き(4月29日)、チャグチャグ馬コ(6月第2土曜日)、岩手山山開き(7月1日)